



CFPの数字がもたらすインパクト

—— 循環型リサイクルポリエチレン袋 ——

2023年3月

東京吉岡株式会社

会社概要

会社設立：1964年12月

主要得意先：アパレル企業、アパレル小売企業

取り扱い商品

アパレル
副資材



ブランドネーム



ブランド下札



RFID



品質表示ネーム



袋



パッケージ

販促
ツール



カタログ



フライヤー



POP



ショッパー



ノベルティ

サステナビリティの取り組み

2019年の自社展示会から商品バリエーションの拡充を始め、
取り組み全体に「naturaty（ナチュラティ）」という商標を取得
現在はリサイクル/紙素材/バイオマス/生分解など、40種類以上のアイテムを揃える



環境省CFPモデル事業の対象商品選定

上記取り組みの中でリサイクルポリエチレン袋が最も効果的にCO₂を削減すると考え、
それを更に製品→回収→製品と「循環型リサイクル」する製品を実現
またCFP算定の推進を検討する中で「循環型リサイクル」の袋において
環境省のモデル事業に参画し、本格的なCFP算定の第一歩となる

算定対象商品

循環型リサイクルポリエチレン袋

(製造、物流、保管の工程で
商品をホコリや汚れから守る透明袋)

主素材：低密度ポリエチレン(LDPE)

サイズ：280×385+40mm

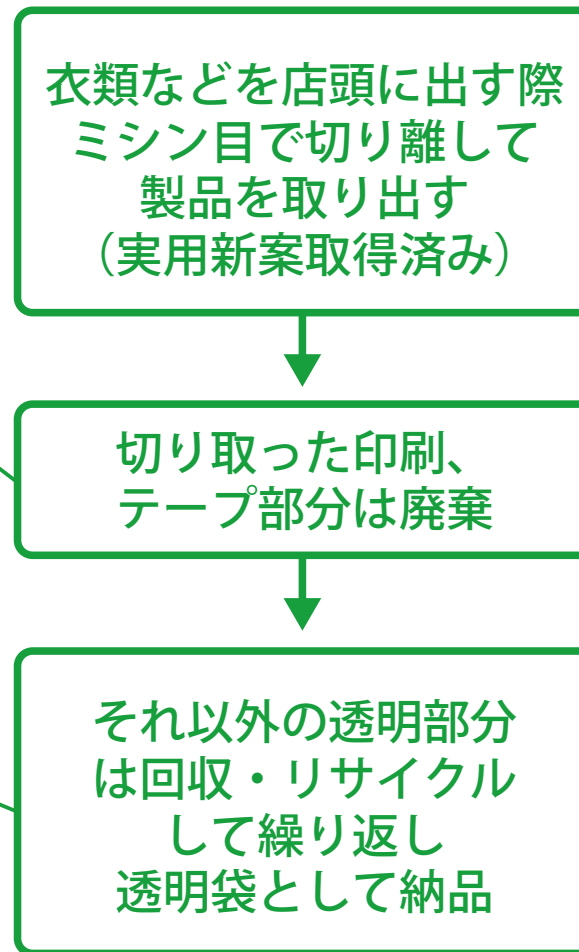
算定単位：1,000枚



閉じた状態



印刷部分をマシン目で
切り取り開けた状態

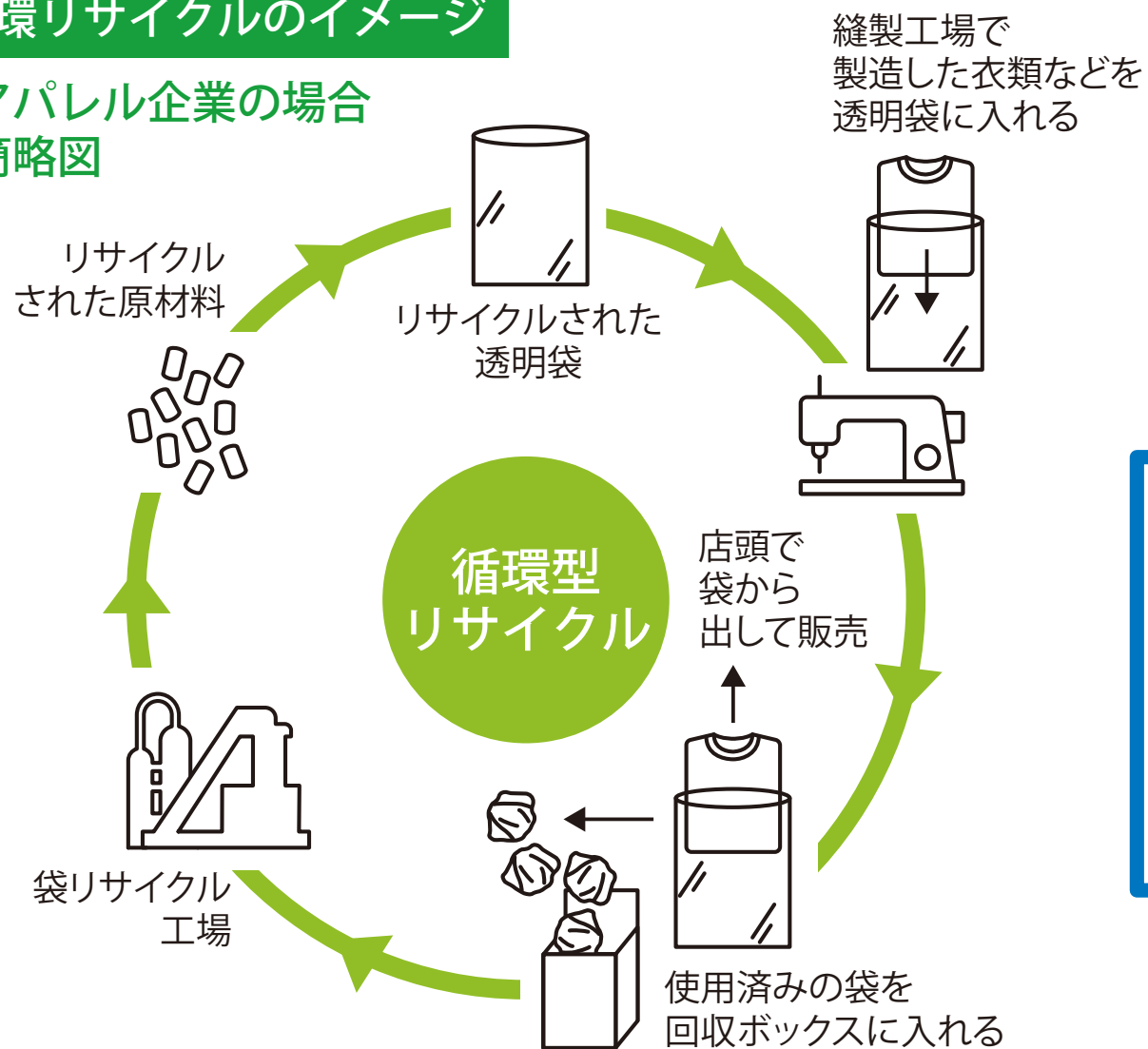


印刷・テープなしで
100%循環リサイクルも可能

循環リサイクルのイメージ

※アパレル企業の場合

※簡略図



リサイクルされた透明袋
を縫製工場に納品

縫製工場の製造段階で
衣類を透明袋に入れる

衣類を店頭で袋から出して販売

従来、使用済み袋は
ゴミとなり廃棄・焼却

使用済み袋を
回収・リサイクルして
繰り返し利用すること
による循環型リサイクル

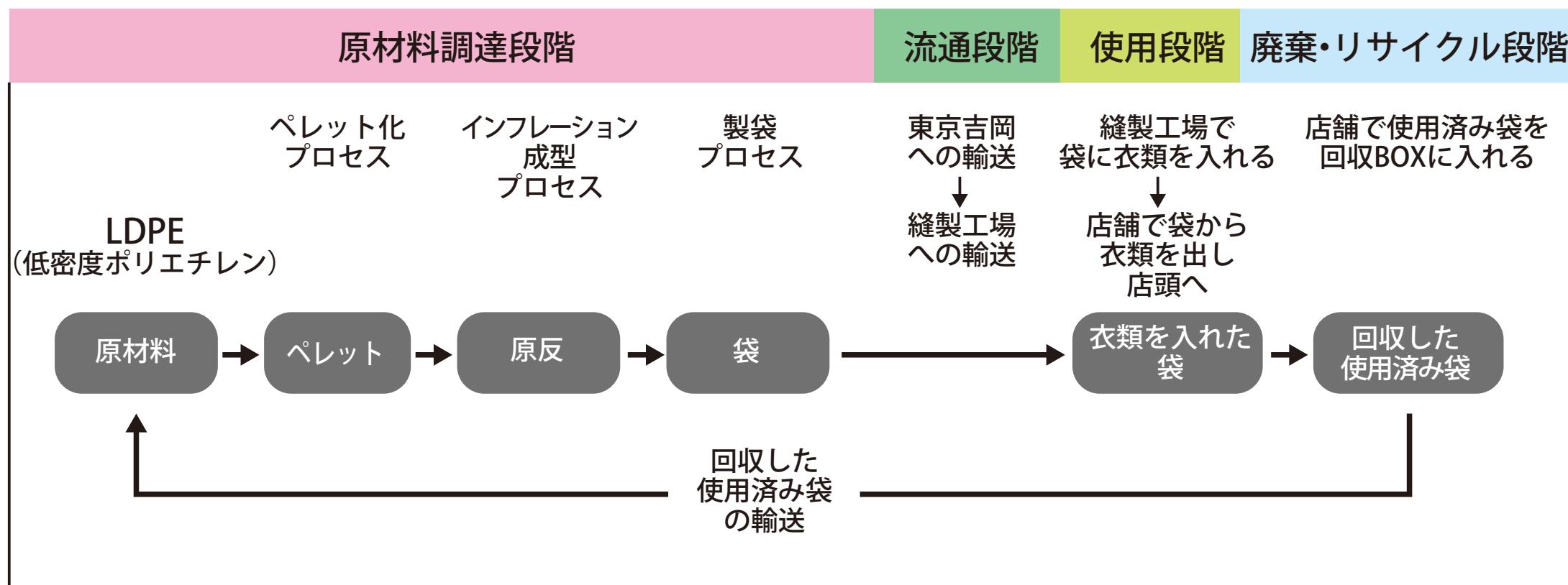
CFP算定：1

ライフサイクルフロー

製品のライフサイクルを段階ごとに書き出す

※生産段階は東京吉岡を主体として原材料調達段階に含む

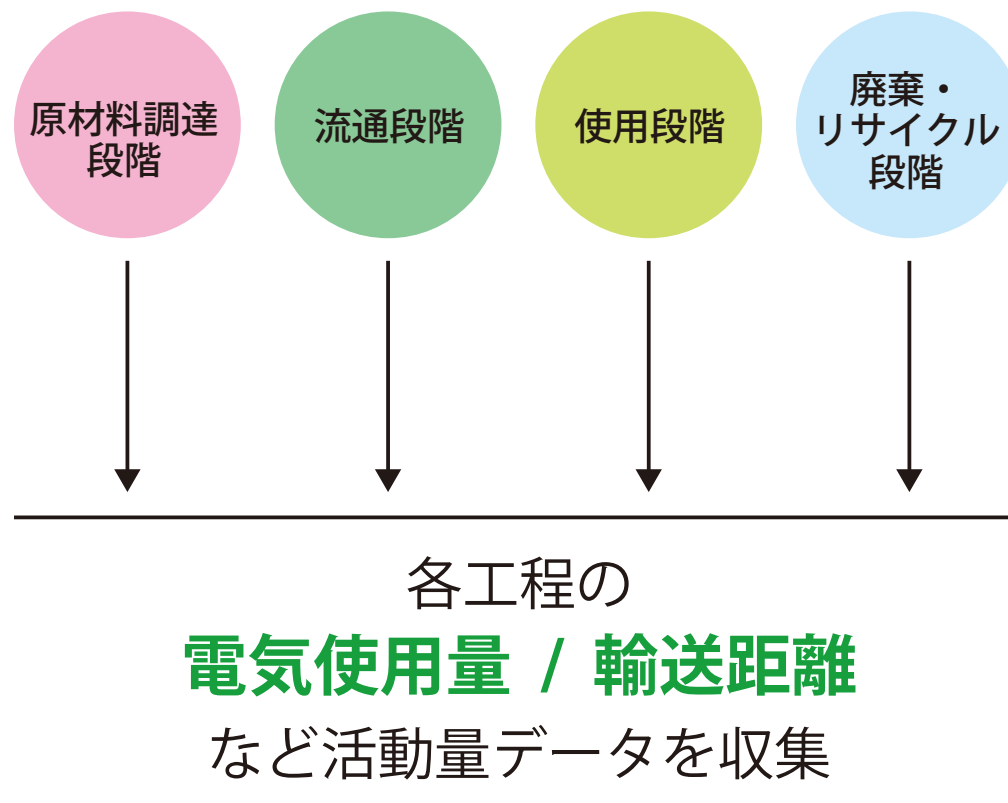
※簡略図



CFP算定：2

算定手順書

ISO14067を援用してCFP算定のルールを策定



データ取得が困難な場合に
シナリオを設定

- ▶ 実測値が取得困難な電力は機械の規格値を使用
- ▶ 拠点を決定できない輸送は平均距離を使用

CFPの影響は小さいと
推定されるものの、
データが収集できず
妥当なシナリオが設定できない
場合のカットオフ基準

- ▶ 重量比で5%以下の部素材
- ▶ 電力を使用しない人力による作業
- ▶ 東京吉岡の管理外となる輸送

CFP算定：3

計算シート

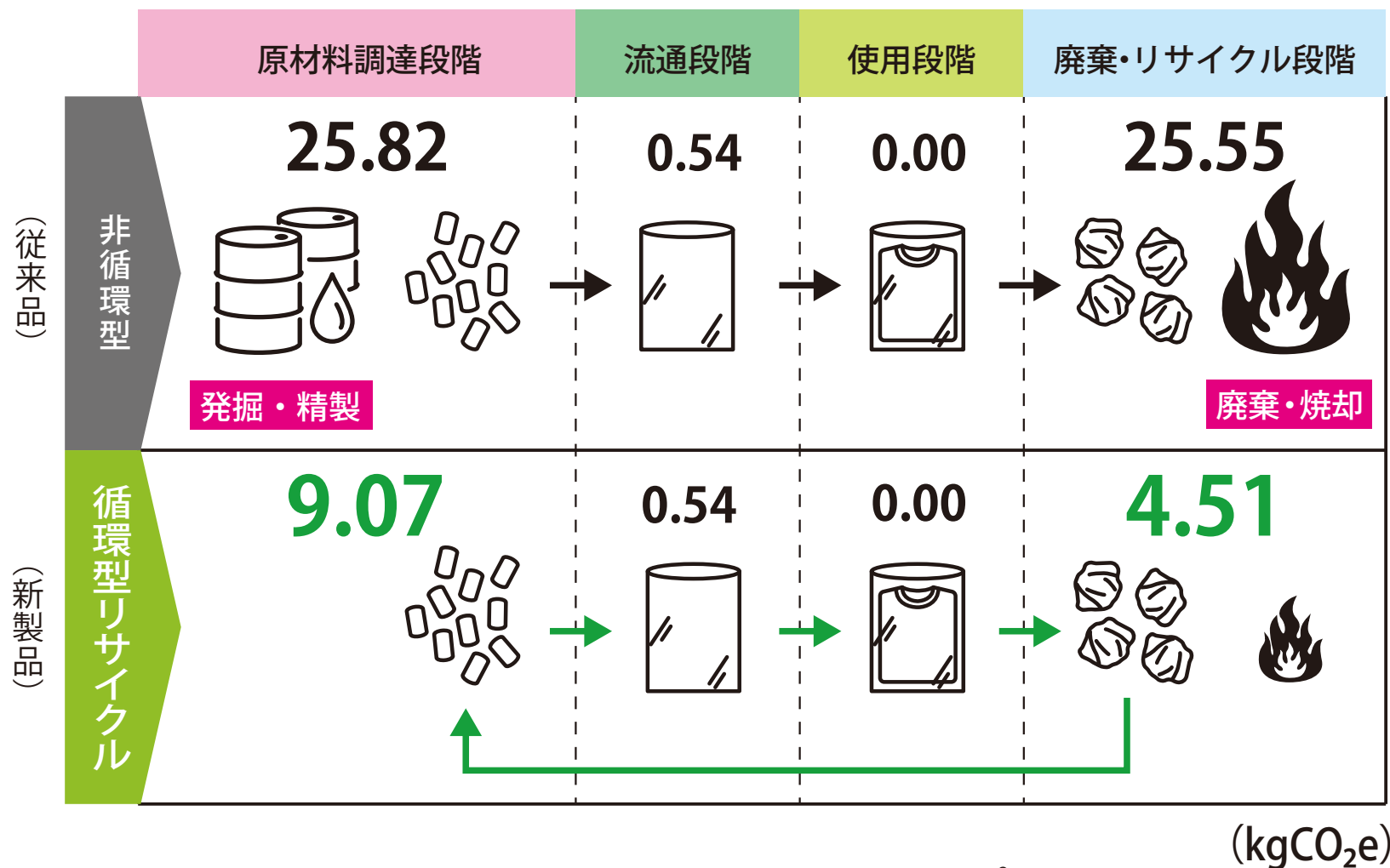
算定手順書の活動量データをもとに
 「IDEA Ver.3.1 / 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門」
 「環境省排出原単位データベース」
 の原単位を使用してCO₂排出量を算定



CFP算定：4

算定結果

「非循環型」と「循環型リサイクル」のCO₂排出量を各段階ごとに確認



非循環型では原油の「発掘・精製」、使用済み袋の「廃棄・焼却」の工程でCO₂排出量が大きい

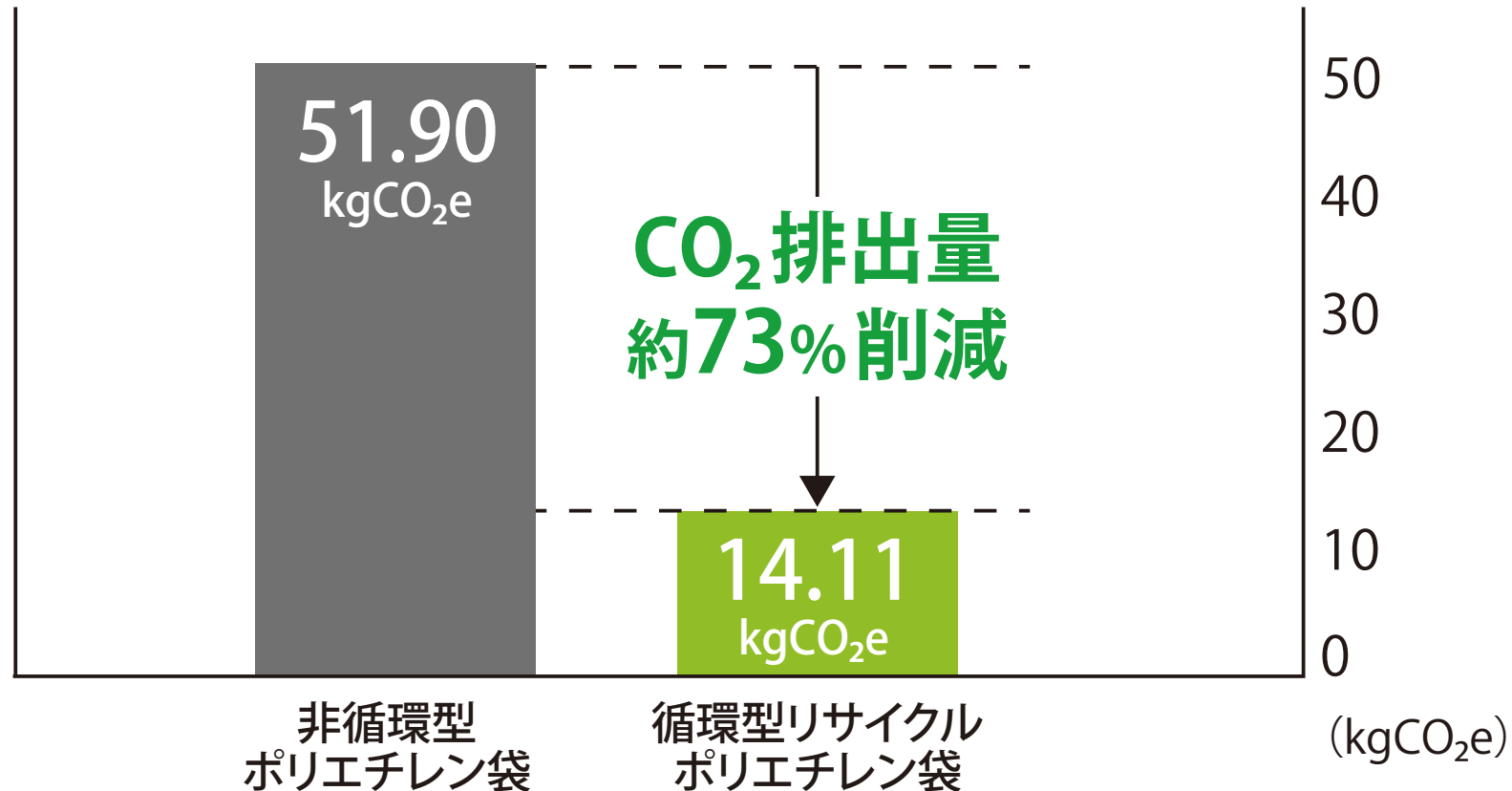
循環型リサイクルでは原材料調達段階が25.82→**9.07** kgCO₂e、廃棄リサイクル段階が25.55→**4.51** kgCO₂eと**大幅に減少**

CFP算定：5

算定結果

「非循環型」と「循環型リサイクル」CO₂排出量の全体を比較

CO₂排出削減に大変効果的なことを確認



インパクト**循環型リサイクルポリエチレン袋の利用によるメリット**

- Scorp 3 におけるCO₂大幅削減を実現する
- 2030年度 温室効果ガス46%削減目標に貢献する
- 環境に配慮した企業という消費者の購買基準に合わせられる
- 排出する膨大なゴミの量を削減できる

展開

WEBサイト、展示会などで販促広報を展開
国内→中国での販路も計画中



WEBサイトにてCFP算定報告書を公開

東京ビッグサイトでの展示